

## —創立90周年記念— 歴代会長からのメッセージ

特別展示より

### メッセージによせて

日本生物工学会会長 原島 俊



公益社団法人日本生物工学会は、平成24年に学会創立90周年を迎えることができました。これもひとえに、正会員をはじめ、産業界を含む会員の皆様方のご支援の賜物と改めて厚く御礼を申し上げます。

創立90周年を記念して、去る10月23日から26日にかけて、神戸国際会議場および神戸ポートピアホテルで記念式典、記念祝賀会、そして記念大会を開催致しました。その間、90周年記念事業のひとつとして、90年にわたる生物工学会の歴史を振り返る年表と歴代会長を務められた先生方からのメッセージを、先生方のお写真とともに、ポスターとして展示を致しました。メッセージをいただいた歴代会長の先生方は、第9代会長の永井史郎先生に始まり、10代兒玉徹先生、11代小林猛先生、12代吉田敏臣先生、13代谷吉樹先生、14代新名惇彦先生、15代五十嵐泰夫先生、16代塩谷捨明先生、そして前会長の第17代飯島信司先生までの9名の先生方であり、1991年に就任された永井先生から、2011年に退任をされた飯島先生までの20年間に学会長を務められた先生方です。しかし、それぞれの先生方は、若い時から、生物工学会に関わりの深い先生方ばかりですので、そうした年月を含めると、実に、半世紀もの間にわたる学会の歴史を振り返っていただくと同時に、未来に託すメッセージをいただいたこととなります。90周年記念大会に御参加いただいた会員の皆様方には、特別展示場にお立ち寄り頂き、これらのメッセージをお読みいただいた方も多いかと思いますが、記念大会中、そうした時間をお取りいただけなかった方々、あるいは、生憎、90周年記念大会においでいただけなかった会員の皆様方もいらっしゃるかと思います。歴代会長の先生方からいただいたメッセージは、いわば、学会の貴重な資産ともいえるものであり、「そのままポスター展示として終わらせてしまうのは、いかにももったいない、ぜひ活字にも残して、会員の皆様に、広くご覧いただくとともに、長く記録に留めては」というご意見を多くの方々から頂きました。こうした経緯もあって、生物工学会誌に掲載をさせていただくことにした次第です。

今、改めて、いただいたメッセージを再読させていた

だきますと、自らが若手であった時代の学会の思い出、学会90年の歴史を振り返ってのお考え、和文誌、英文誌の名称変更と毎月刊行化のご苦勞、80周年記念大会の思い出、韓国バイオテクノロジー学会（KSBB）との国際交流の創始、英文誌の電子ジャーナル化、学会ホームページの充実化、そして学会の公益法人化など、それぞれ会長時代に尽力されたことはもちろん、学会への叱咤激励、若手生物工学研究者や未来の本学会、ひいてはアジアの生物工学の次代を担う学生諸君へのメッセージなど、実に多くの貴重なメッセージをいただいたことを改めて認識致しました。歴代会長の先生方の生物工学会に対する深い愛情と思いが、ひしひしと伝わってくると同時に、これから、生物工学会が発展するために、我々が何をなすべきかについて多くのヒントをいただいたように思います。折しも、今期の理事会では、その発足時に3つの運営目標を設定致しました。それは、「学から産へ」「シニアから若手へ」「国内からアジアへ、そして世界へ」という目標であります。こうした目標は、歴代会長の先生方が、現在の生物工学会を形作るために尽力してこられたこれまでの歴史の上に成り立っているものであることを、今更ながら感謝とともに思い知った次第です。

生物工学は非常に若い学問です。これからの発展が大いに楽しみではありますが、そうした学問の進展の中で、生物工学会が積極的にアジア諸国の関連学会と連携し、リーダーとしての役割を果たすこと、そして、広くアジアで活躍し、ひいては世界の人々の福祉に大いに貢献できる若い人材を育成することなどを通して、会員の皆様に、本学会の存在意義を享受していただくとともに、公益法人として、益々社会に貢献することができればと強く思います。90周年記念大会にご出席いただけなかった会員の皆様方におかれましては、歴代会長の先生方からのメッセージを、ぜひご一読いただき、また、特別展示場にお越しいただいた会員の皆様方におかれましても、この機会に再読いただいて、改めて本学会90年の歴史を振り返るとともに、学会の未来に思いを馳せていただければと思っています。